

第2学年2組 国語科学習指導案

指導者 北九州市立湯川中学校
教諭 為近 仁美

1 単元 論理を捉えて ～根拠を明確にして意見を書こう 意見文を書く～

2 単元の目標

国語への 関心・意欲・態度	○ 意見文の形式や話題に興味をもち、積極的に書く活動に参加しようとする。 ○ 論理的な文章を読む楽しさを味わい、自分の興味・関心に応じた新聞記事を選択し、意見文を書こうとする。
書く能力	○ 社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる。
読む能力	○ 文章全体と部分の関係、事実と意見などを読み分け、内容の理解に役立てることができる。
言語についての 知識・理解・技能	○ 語句の効果的な使い方について理解を深め、表現に役立たせることができる。

3 新聞活用の視点(NIE との関連)

本単元では、根拠を明確にした意見文を書く活動を通して、社会生活の中から課題を決め、多様な方法で材料を集めながら自分の考えをまとめることができる力、文章全体と部分の関係、事実と意見などを読み分け、内容の理解に役立てることができる力を養うことをねらいとしている。これは、中学校学習指導要領解説国語編「教科の目標(2)」にも、「社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う」と示されている。これらの力を養うためには、論理的な文章を読む楽しさを味わわせ、新たな発見や驚きなどを通じて、地球の未来について関心をもとうとすることが必要となる。

そこで、新聞のもつ確実性を活用して、読み書きの能力、読み解く力、教養や常識といったメディア・リテラシーを向上させることが、単元の目標を達成するために有効であると考えられる。なぜなら、新聞を作成する過程では、ある出来事について、記者の取材によって根拠等が集められ、それらの情報の事実を検証し、妥当性を確認した上で厳選されるため、莫大な情報から自分の求める最適なものを選びとる作業が省略できるとともに、そのような過程を経て新聞がつけられていることを理解することで、自らの考えをまとめる方法を見出すことができるからである。

本単元における新聞活用の場面を、主に以下の3つの場面に設定した。これは、本単元において子どもの思考を方向づけ、よりねらいに迫ることができると考えたからである。

○ 意見文を書くテーマを決める場面 (第1次)

意見と事実を読み分け、課題に対する意見を、より明確にしたり深めたりすることができるようにするために、それぞれの部分にマーカーで線を引きながら、新聞記事を読ませる。

○ 2つの意見文を読み比べ、説得力のある方を選び、その理由を考える場面 (第3次)

3つの観点(根拠、反論、その他)を比較して見出しやすくするために、別の新聞記事(携帯の使用時間について)をテーマとする意見文を読み比べさせる。

○ 別の意見文を書く場面 (第5次)

より説得力のある意見文を書けるようにするために、前時までの振り返りから既習の視点を明らかにさせる。

4 単元計画（8時間）

<p>主な学習活動・内容</p>	<p>○ 指導・支援上の留意点 ◎ 新聞活用の視点をふまえた手だて</p>	<p>【観点】評価規準（評価方法）</p>
<p>1 意見文を書くテーマとなる新聞記事（読売新聞ワークシート）を読む。① ・話題「犬猫のマイクロチップについて」</p> <p>2 意見文構成メモを活用して意見文を書く。② (1) 意見文の構成についてまとめる。 ・双括型 ・頭括型 ・尾括型 (2) 意見文構成メモを作成する。 (3) 意見文構成メモを参考にして意見文を書く。</p>	<p>◎ 意見と事実を読み分け、課題に対する意見を、より明確にしたり深めたりすることができるようにするために、それぞれの部分にマーカーで線を引きながら、新聞記事を読ませる。</p> <p>○ 意見文の構成には3つの型があることに気付かせるために、述べたいものの場所が異なることを、意見文の例から見出すよう伝える。</p> <p>○ 自分の意見を支える根拠を明確にさせるために、どのような視点で根拠を絞り込んだかを明らかにした後、意見文構成メモを書かせる。</p> <p>○ 根拠がより明確に表れる文章にするために、意見文構成メモから、自分の意見やそれを支える根拠などを双括型にあてはめて書かせる。</p>	<p>【読】根拠となる情報を積極的に読み取っている。（新聞ワークシート）</p> <p>【言】意見文にふさわしい構成や型があることを理解している。（学習プリント）</p> <p>【書】根拠を明らかにして、構成を工夫して書いている。（意見文構成メモ、意見文）</p>
<p>3 2つの意見文を読み比べ、説得力のある方を選び、その理由を考える。① 【本時】 ・根拠 ・反論 ・その他</p>	<p>○ 根拠・反論・その他の3つの観点の気づきをさらに広げるために、個で考えた理由を班で交流し、ホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>◎ 3つの観点を比較して見出しやすくするために、別の新聞記事（携帯の使用時間について）をテーマとする意見文を読み比べさせる。</p>	<p>【言】意見を効果的に伝えるためには、根拠・反論・その他などの観点に基づいて、その具体的な要素を見出している。（学習プリント、振り返りシート）</p>
<p>4 自分の意見文を推敲する。② (1) 前時の視点をもとに、自分の書いた意見文を推敲する。 (2) 班で推敲した意見文を読み合い、お互いに評価をし合う。</p> <p>5 自分の興味ある新聞を選択し、意見文を書く。②</p>	<p>○ 自分の意見文をよりよくするための改善点を見出させやすくするために、振り返りの記述の文章を学級全体で交流し、再度視点を整理する。</p> <p>○ 客観的な視点から意見文を推敲することができるようにするために、お互いの意見文を読み合い、整理した視点をもとに評価させる。</p> <p>◎ より説得力のある意見文を書けるようにするために、前時までの振り返りから既習の視点を明らかにさせる。</p>	<p>【書】根拠を具体的に示したり、反論に対する考えを示したりしながら意見文にまとめている。（意見文）</p> <p>【言】友達の見解文と読み比べ、説得力をもつための改善点を理解している。（学習プリント）</p> <p>【書】既習の視点を踏まえて、自分の意見文を書いている。（学習プリント・振り返りシート）</p>

(1) 主 眼

2つの意見文を比較して読む活動を通して、説得力のある意見文を書くための具体的な要素を、3つの観点を基に見出すことができるようにする。

(2) 本時における新聞活用の視点

主眼を達成するために、本時では意見文AとBとを3観点に基づいて読み比べる場面で新聞を活用する。その際、3つの観点を比較して見出しやすくするために、別の新聞記事(携帯の使用時間について)をテーマとする意見文を読み比べさせる。

(3) 準 備

学習プリント, Yチャート, ゆがわシート

(4) 過 程

学習活動・内容	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法) ◎ 新聞活用の視点をふまえた手だて
<p>1 意見文の型の種類を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・双括型 意見→根拠→意見 ・頭括型 意見→根拠 ・尾括型 根拠→意見 <p>2 本時のめあてと学習の流れを確認する。</p> <p>(1)めあてを設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて 2つの意見文を比較して、説得力のある意見文を書くための具体的な要素を見つけよう。</p> </div>	<p>○ 意見文の比較を行うときの3観点を想起させるために、前時の復習を兼ねて意見文の型を確認させる。その際、アクティブリーダー(a1)にそれぞれの型について説明をさせる。</p> <p>○ 本時の方向性を明確にするために、どの活動から何を学ぶのかをめあてとして提示し、確認させる。</p>
<p>(2) 本時の流れ(①~④)を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①意見文読み比べ ②観点ごとの気づき(班活動) ③発表(全体で確認) ④振り返り <p>3 意見文AとBとを3観点に基づいて読み比べる。</p> <p>(1) 個で考える。</p>	<p>○ めあての達成に向けて、学習の流れ明確にするために、a1に流れを説明させ、本時のゴールを示させる。</p> <p>◎ 3つの観点について比較し、ポイントを見出しやすくするために、別の新聞記事(携帯の使用時間について)をテーマとする意見文を読み比べさせる。</p> <p>○ この後の班での活動を活発に行うことができるようにするために、比較して気づいた部分に線を引かせる。その際、状況に応じて時間を延長する。</p>

(2) 班で考える。

- 個での気づきをさらに深めて発展させるために、根拠・反論・その他の3つの観点に基づいて、個で考えた気づきやその理由を班で交流し、Yチャートを活用したボードにまとめさせる。
- 班活動の流れとルールを周知するために、班活動に入る前にa1に班活動の流れとルールを説明させる。

予想される生徒の気づき

- ・根拠…具体的な説明や事実を書いている。
- ・反論…意見に対する反論とその解決策を書いている。解決策にも根拠がある。
- ・その他…最初と最後に自分の意見を述べている。(双括型) 語尾が統一されている。内容に一貫性がある。

4 説得力を高めるための要素を学級全体で整理する。

(1) 学級全体で交流する。

- 全体で考えを共有するために、a1に班で出てきた気づきの中から、共通項やキーワードを整理させる。
- 気づきや考えを深めるために、班で出した考えについてなぜそのように考えたのか、意見文のどこから読み取ったのかなど教師とのやり取りを行う。

予想される生徒のポイント

- ・根拠…具体的な説明や事実の提示。
- ・反論…意見に対する反論とその解決策を述べる。
- ・その他…双括型で書く。文末を統一する。

(2) 具体的な要素を整理する。

- 気づきや考えを深めるために、班で出した考えについてなぜそのように考えたのか、意見文のどこから読み取ったのかなどを全体で交流する。

5 本時のまとめを行い、学習を振り返る。

(1) 本時のまとめを行う。

まとめ

説得力のある意見文を書くためには、根拠、反論、構成などに着目し、それぞれ具体的な要素に従って書くことが必要である。

- 本時の学習の重要点を押さえるために、個でまとめさせる。その後、1人1人に発表させa1が全体のまとめを行う。

(2) 本時の学習を振り返る。

- ゆがわシートに、本時の学習で気づいたことやこれから活用したいこと、チャレンジしたいことなどを記述させる。
【言】意見を効果的に伝えるためには、根拠・反論・その他などの観点に基づいて、その具体的な要素を見出している。(学習プリント、振り返りシート)

予想される生徒の振り返り

- ・自分の意見だけでなく、反論についても考えないといけなかった。
- ・自分の書いた意見文を読み返して、今日学んだポイントが押さえられているか確認しようと思った。
- ・今日の学習を活かして、別のテーマでも意見文を書いてみたいと思った。
- ・意見文を読むときにも、書くときのポイントが使えると思った。

ご指導よろしくお願ひ致します。